

# 香美市文芸 風の流氷

【短歌】  
楠瀬 兵五郎 選

色づける銀杏の実は採る人なし輸入銀杏に圧されると言う  
新年の宴へと子を送りゆき帰るさ東に満月上る  
振袖姿の孫の成人祝ひきぬ夫の御霊にそを告げてをり  
弾みつつ少女が電車降りてゆく白きブーツと携帯電話  
黄に燃ゆるいちようの大木この杜守りて高くそびえ鎮もる  
生きてゐる地球の上にもう少し生きてゐたいと思ふ元旦  
埋火に炭足して待つ松の風友とつどひて炉の手前なり  
白髪山は雪に光りて遥かなり仰ぎあふぎて大根を干す  
彩色の料理講習の絵を抱き食育ボランティア最終とする  
老人クラブの新年の会友の弾く琴の音色にただ聞き入り  
日本中の少し大きな街を見よコメリ、しまむら、ジャスコ、青山  
職立つ氏神さまの境内にまばらに寄り来る足の音むなし  
念願の二階の部屋に移り来ぬ紅葉の山々窓に見飽かず  
政党は一つとなりて国民の為の政治をと思ふ時あり  
欲ばりを言うのは止そう青空も花も小鳥もいっばいだもの  
たとふれば撫子の花まどかなる祖母の写真は見れども飽かず  
来る春を迎えず逝きし孫あわれ大学九ヶ月夢持ちしものを  
除夜の鐘なりつぐなかに寅年へ己が刷新に願いをこめぬ  
夢のように息子がわが児を抱く姿三人の子を持つ父の顔なり  
金メダル曾孫が絵の賞頂きて飛行機の窓富士の初雪  
日の当たる部屋にて自作の芋を焼き今朝の寒さも温かくなる  
舞鶴に戦友と別れ早六十年秋田の雪は深しとぞ聞く  
映像の豪雪老等の苦勞あり高知の青空分けてやりたし

- |       |       |       |       |       |      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |      |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 高野 和一 | 山本 太幸 | 有澤 春江 | 西尾 玉喜 | 楮佐古きよ | 谷内 務 | 林田 幸子 | 山崎 貴子 | 吉本 悦子 | 小松 隆之 | 門脇 千代 | 公文 千恵 | 大石 綏子 | 門田 明子 | 北村佐喜子 | 公文 正子 | 小松 禮子 | 高橋 章 | 武内 弘子 | 竹村 咲子 | 出原 久子 | 古川 安子 | 松中 賀代 |
|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|

啄木の哀しい歌を好む人共感し時には希望ともなる  
頂きし歌集を読めばそこに居る如く成りし歌心打たるる  
大道に人居らぬ間も弾き歌ふ若者の明日よきことのある  
S蜜柑三日に十個持ちやれば何よりうまいと術後の弟  
砂ぼこりくねった道を登り行きヒマラヤ見ゆる峠のホテル  
潰されし獣の命と虐待の今日の子の記事比ぶべくもなし  
風和ぎてひととき出て来し道岸に光あつめて二ガナの花むら  
忙しなく紋白蝶とぶ傍らにごめんなきいと青虫つぶす  
いにしへの流転の民の手になれる木地の器に気迫とみやび  
マロニエは赤き穂に立ち咲きゐたりき港灯台にわが降りたてば  
おてもやん踊った妻の化粧ふく優しきその夫の手つき不器用  
中学の今年に古希の同窓会おぼえぬ人の中に座りぬ  
ゆつたりと泳ぐそば群れて餌を食み光る魚体を可愛く楽しむ  
紅葉せし山の裾野をあゆみつつ還りこぬ日の思ひ出たぐる  
老いてたのし動物園の散策と友らの勢いに吾も合わせて  
行く先々秋焼の店数あれど足を止める人少なき通り  
水さかな人去らしめし温暖化沈下橋は雲梯のさまに延ぶるも  
日々のニュースうんざり高空の飛行雲さへ美しさ覚えす  
川下に猟銃の音今し方わが前を下りゆきたる一羽  
輝ける満月星に出会ふたび両手を合はす亡き母のやうに  
悔みても悔やみきれない思ひあり続けて二年病みしイチゴに  
山の水やつぱり旨いと町に住む息子はポットに水汲みてゆく  
正月に母と取りたる百人一首読み手はいつも母なりしかな  
春の日の光あまねく庭に満ち肉焼く子らの声のあかるし  
岩打てる波は戯るごとくにて沈めるあともほぐれては打つ  
※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。投稿方法は自由  
です。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

- |       |      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |      |       |      |       |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| 森本 幸美 | 山崎 緑 | 有澤 泰子 | 法光院俊子 | 宮地 亀好 | 小松もとみ | 坂上のぶ子 | 都築 初代 | 岡林 華伝 | 佐竹 玲子 | 古谷 由美 | 伊藤 清子 | 横田直加子 | 大石紗智子 | 尾立 かよ | 竹村 稔美 | 大岸由起子 | 鍵山 みつ | 佐々木真里 | 山下 弓枝 | 小野川恵仁 | 坂本 好 | 鍵山 春子 | 森 晶子 | 楠瀬兵五郎 |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|

## 図書館だより

市立図書館

「山田おはなしの会」が全国優良読書グループ表彰を受賞しました！  
このたび、県読書活動推進協議会の推薦により、長年にわたり読書運動の推進に寄与した団体に贈られる『第42回優良読書グループ表彰』を山田おはなしの会が受賞しました。



山田おはなしの会

### 平成21年貸出ランキング(全館・一般)

- 1Q84(村上春樹)
- 2 暴雪圏 (佐々木謙)
- 3 あなたと共に逝きましょう (村田喜代子)
- 4 悼む人 (天童荒太)
- 5 聖女の救済 (東野圭吾)
- 5 疑心 (今野敏)
- 5 彼岸花 (宇江佐真理)
- 5 おそろし (宮部みゆき)

同会は、地域の保育園・幼稚園・小学校・育児サークル高齢者学級などへ出向き『読み聞かせ』を行っています。また、読み聞かせについての研修や、地域や学校での読み聞かせ体験の情報交換を行っており、子どもたちを本に近づけるきっかけを作っています。  
同会代表の楠目ふみさんは、「賞をいただきこれからの活動の励みになりました」と話されています。  
※同会の活動は、奇数月の第3水曜日の9時半から図書館本館で行っています。興味のある方はぜひ、ご参加ください。

### おすすめの1冊



【小説 ガマの油】  
(作:うらら)

不器用で、自分の生き方に自信の持てない6人の良き人々が、手探りで自分なりの答えを出そうと悩む姿に、共感を覚えました。  
「残された人が思い続ける限り、人はその人の心の中で生き続ける」  
実感として、心にしみる言葉でした。  
巻末の手紙を読むときは、ぜひお一人のときに・・・  
50代 女性 (物部町)

## 吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会講演会について

吉井勇作品紹介 龍馬編 その①

3月20日(土)に開催される第7回吉井勇顕彰短歌大会表彰式の終了後に、講演会を開催します。大会への作品投稿の有無に関わらず、どなたでもご参加できます。皆さんお誘い合わせの上、ご来場ください。  
【日時】3月20日(土) 14時30分(予定)  
【場所】猪野々集会所(吉井勇記念館隣)  
※入場料無料  
【講師】玉井清弘さん(香川短期大学非常勤講師・NHK学園短歌講座友の会 選者・朝日新聞香川版選者)  
【送迎バス】  
香美市役所本庁前から、香美市役所香北支所前経由で、送迎バスを運行します。  
行き 12時10分発  
帰り 16時10分発  
【問い合わせ先】  
市立吉井勇記念館  
58・2220

この石かしの手を觸るなゆめ 雅堂 『京洛史蹟歌』(昭和19年2月大雅堂)  
解説 京都市河原町通に、「坂本龍馬・中岡慎太郎遭難の地」という標石が立っている。以前ここにあった近江屋の2階で、この二人の海南の俊傑は数人の刺客に襲われ、その若い命を維新の大業の前に捧げた。かしこ恐れ多い ゆめII決してするな